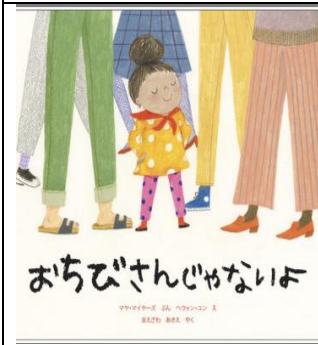


「アザラシのアニュー」あずみ虫・作 童心社

生まれたばかりのアザラシの赤ちゃんアニューが大ぼうけんしながら、成長していきます。実際にアラスカに住んでいる作者のあずみ虫さんがアニューのお話を通して、北の海に住む野生動物たちのくらしを教えてくださいます。アニュー、がんばれ！

「ごめんね でてこい」ささきみお・作 文研出版

わかってるんだけど「ごめんね」のたった一言が言えないことって、きっとだれにでもありますよね。少しの間やさしいおばあちゃんと住むことになったはなちゃんですが、いつもとちがう生活にモヤモヤしてきて…。さあ、あなたならどうしますか？そしてはなちゃんはとするんだろう？



「おちびさんじゃないよ」マヤ・マイヤーズ・作 ヘウォン・ユン・絵
イマジネーション・プラス

体が小さなテンちゃんをみんなは子どもあつかいするけど、テンちゃんは強くてゆうかん。自分より小さな転校生のマルくんを守るため、いじめっこに立ち向かいます。友だちを思ってあげるやさしさが伝わってきます。テンちゃん、かっこいいなあ。

「どうやってできるの？チョコレート」田村孝介・写真 ひさかたチャイルド

みんなが大好きなチョコレート、どうやってできるか知ってますか？カカオの実の大きさにびっくり、あんなに時間がかかるのにまたまたびっくり。チョコのお菓子の作り方まで書いてあって、これは楽しい！ 今にもいいにおいがしてきそうです。



感想文はこれらの課題図書でなくても、図書館にある本で自分が「わあ～おもしろかった」とか「夢中で読んじゃったよ」と思った本について書いてもいいので、ぜひ書くことにチャレンジしましょう。小島は6月のほとんど

の水曜日と金曜日に図書館にいますので、時間がある限り

本選びの相談に乗りますよ。待っています！



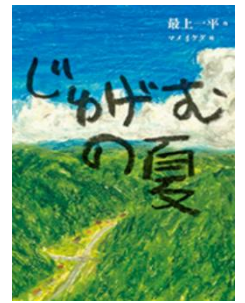


「いつかの約束 1945」 山本悦子・作 岩崎書店

じぶんは9さいのすずという名前の女の子だというおばあちゃんと出会ったゆきなどみく。おばあちゃんとすずちゃんが入れかわったのではと考えたふたりはおばあさんと三人で、本当のすずちゃんをさがしに行きます。すずちゃんはどうなことを願っていて、それはかなったのでしょうか？

「じゅげむの夏」 最上一平・作 佼成出版社

なかよし男子4人組、そのなかのかつちゃんは、筋ジストロフィーという筋肉がだんだん弱ってそのうち歩けなくなる病気です。でも3人はかつちゃんを特別あつかいしないで、かつちゃんもできる方法を考えながら4人で夏休みにいろいろなぼうけんにチャレンジします。こんな友だちと夏休み最高！



「さようならプラスチック・ストロー」 ディ・ロミート・作ズエ・チェン・絵 光村教育図書

知ってました？ ストローは約5千年前に発明されたそうです。その長い歴史も、なんで今プラスチックごみが問題なのかも説明してくれます。でもプラスチック・ストローがないと困る人もいますのです。私たちそれぞれが地球のために何ができるのかを自然と考えられるような本です。

「聞いて聞いて！音と耳のはなし」 高津修、遠藤義人・作 長崎訓子 福音館

音はふるえる空気の波で、その波が耳を通り電気信号になって脳に届きます。仕組みは難しそうだけど、聞こえるってふしぎですばらしい！音と耳のことをもっと知りたくなってきます。ところで、どうして耳が二つあるのか知っていますか？ その理由も教えてくださいよ。



かんそうぶん かだいとしよ としよかん ほん じぶん 感想文はこれらの課題図書でなくても、図書館にある本で自分が「わあ～おもしろかった」とか「夢中で読んじゃったよ」と思った本について書いてもいいので、ぜひ書くことにチャレンジしましょう。小島は6月のほとんど

すいようび きんようび としよかん じかん かぎ の水曜日と金曜日に図書館にるので、時間がある限り

ほんえら そうだんの 本選びの相談に乗りますよ。待ってます！





「ぼくはうそをついた」西村すぐり・作 ポプラ社

おじいちゃんから原ばくで亡^なくなったミノルおじさんの話を聞いたリョウ。リョウのあこがれるバレエ部のレイのひいおばあちゃんは、原ばくで子どもを失くし今でも子どもを探^{さが}し回ります。リョウがたどったミノルおじさんの足あと、そしてリョウがレイのひいおばあちゃんについてのウソとは？

「ドアのむこうの国へのパスポート」トンケ・ドラフトほか・作 岩波書店

ラウレンゾーは、読み聞かせがきっかけで知り合った作家から、ドアのむこうの国のことを聞きます。その国に行くために、こどもたちはクラスの間人たちと協力してパスポートやビザを手に入れます。そしてドアは開いて……。イワン・オソロシというネコも出てきます！



「図書館がくれた宝物」ケイト・アルバス・作 徳間書店

第二次大戦中のロンドン。12才11才9才の三兄弟は親代わりだったおばあちゃんを亡^なくし、親代わりになってくれる人を探^{さが}すためにそ開します。そ開先でのつらい日々、3人にとって村の図書館と司書のミューーさんだけが救^{すく}いでした。クリスマスイブのお話の部分がとてもすてきです。

「海よ光れ！3・11被災者を励ました学校新聞」田沢五月・作 国土社

東日本大震災時に避難所となった岩手県の大沢小学校の子どもたちや先生方が、被災者を励まそうと奮闘する姿をえがいた本当にあったお話。子どもたちは、人々の役に立つこと・喜ばれることをしたいと考え、コンクールでも高く評価されていた学校新聞を作り続けます。震災時の5・6年生が大人になってから作った学校新聞も読むと胸がじーんとしてきますよ。



感想文はこれらの課題図書でなくても、図書館にある本で自分が「わあ～おもしろかった」とか「夢中で読んじゃったよ」と思った本について書いてもいいので、ぜひ書くことにチャレンジしましょう。小島は6月のほとんどの水曜日と金曜日に図書館にいますので、時間がある限り本選びの相談に乗りますよ。待ってます！

